

F-2. 著書

1. 平野 久: プロテオミクス, 高山光男, 早川滋雄, 瀧浪欣彦, 和田芳直編, 現代質量分析学, 化学同人, 京都, p. 293-304, 2012.
2. Ino, Y., Kazamaki, R. & Hirano, H.: On-membrane identification of gel-resolved proteins by matrix-assisted laser desorption ionization mass spectrometry (MALDI-MS). In: Modern Methods in Protein Chemistry (Tschesche, H. ed.) Walter De Gruyter, Berlin, p. 113-126, 2012.
3. 木村弥生, 平野 久: LC/MS/MS による疾患プロテオーム解析, 試料分析講座 タンパク質分析(日本分析化学会編), 丸善出版, 2012.
4. Stephani-Kosin, K., Hirano, H. & Kamp, R. M.: Proteomic analysis of Duchenne muscular dystrophy (DMD). In Modern Methods in Protein Chemistry (Tschesche, H. ed.) Walter De Gruyter, Berlin, p. 235-248, 2012.
5. 尾野雅哉, 松原淳一, 根岸綾子, 山田哲司: 2DICAL を用いた疾患バイオマーカー探索, 中山敬一, 松本雅記 監修: 細胞工学別冊, 明日を拓く新次元プロテオミクス 東京, 学研メディカル秀潤社, pp122-130, 2009.
6. 尾野雅哉, 松原淳一, 本田一文, 山田哲司: 血漿・血清プロテオミクス解析による診断、副作用、予後マーカーの開発, 小田吉哉, 長野光司編: 創薬・タンパク質研究のためのプロテオミクス解析. 東京, 羊土社, pp90-96, 2010.
7. 尾野雅哉: 腫瘍マーカー温故知新, 丸義朗編: がん転移 臨床と研究の羅針盤. 東京, 学研メディカル秀潤社, pp22-26, 2010.
8. 山田哲司, 尾野雅哉, 本田一文: がん(腫瘍)マーカー, 渋谷正史, 湯浅保仁 編: がん生物学イラストレイテッド. 東京, 羊土社, pp 318-324, 2011.
9. 尾野雅哉, 松原淳一, 山田哲司: 血漿を用いた膀胱癌早期マーカー探索, 中村和行, 西尾和人, 西村俊秀編: 臨床プロテオミクス, バイオマーカー探索から個別化医療へ. 東京, 金原出版, pp338-340, 2012.
10. 荒木令江: 神経線維腫症 2 型、『皮膚科臨床アセット 15』, 金田眞理 編集, 中山書店、印刷中、2013 年
11. 荒木令江: 融合プロテオミクスによる病態メカニズムの解析『創薬のためのタンパク質・プロテオミクス解析』小田吉哉・長野光司 編集 羊土社、東京、2010 年 pp182-190
12. 中村和行: 第 3 章臨床資料の取扱および第 4 章解析方法及び技術ならびに第 9 章研究例 8. 肝癌、: 日本臨床プロテオーム研究会編、『臨床プロテオミクス』金原出版、東京、2012 年

F-3. 学会発表

1. 朝長 毅: 最近のプロテオミクス技術の進歩とがん研究への応用. 第 112 回日本外科学会定期学術集会, 千葉, 2012 年 4 月 14 日
2. 朝長 毅: 真のバイオマーカーの発見を目指して. 第 10 回日本プロテオーム学会 2012 年会, 東京, 2012 年 7 月 26-27 日
3. 朝長 毅: 疾患プロテオミクスの基礎と Human Proteome Project. 第 19 回日本遺伝子診療学会, 千葉, 2012 年 7 月 26-28 日
4. 朝長 毅: プロテオミクスを用いた新規腫瘍マーカーの探索と実用化. 第 32 回日本分子腫瘍マーカー研究会, 札幌, 2012 年 9 月 18 日
5. 朝長 毅, 佐野聖三, 渡邊史生, 田上真次, 大河内正康, 武田雅俊, 熊谷久美子, 常見雅彦: アルツハイマー病サロゲートマーカーの定量系の確立と診断への応用. 第 31 回 日本認知症学会, つくば, 2012 年 10 月 26-28 日

6. 朝長 毅: 大規模定量プロテオミクスを用いた疾患バイオマーカー探索と SRM を基盤とした実用化へのアプローチ. 第 9 回北里疾患プロテオーム研究会, 東京, 2011 年 7 月 27 日
7. 朝長 毅: 定量プロテオミクス. 日本プロテオーム学会 2011 年会, 新潟, 2011 年 7 月 28-30 日
8. 朝長 毅: 大規模定量プロテオミクスによる疾患バイオマーカー探索. 第 131 回質量分析関西談話会, 大阪, 2011 年 11 月 12 日
9. 朝長 毅: 近年のプロテオーム解析技術の進歩と循環器病研究への応用. 第 11 回 Cardiovascular Frontier Conference, 東京, 2011 年 11 月 19 日
10. 足立 淳: Bioinformatics -GO annotation. 日本プロテオーム学会 2011 年会, 新潟, 2011 年 7 月 28-30 日
11. 足立 淳, 久家貴寿, 白水 崇, 橋口一成, 松本雅記, 中山敬一, 井倉正枝, 井倉 毅, 高田 穰, 朝長 毅: リン酸化プロテオミクスを用いた新規 DNA 損傷初期応答キナーゼの探索. 日本放射線影響学会第 55 回大会, 仙台, 2012 年 9 月 6-9 日
12. 久家貴寿: 新規大腸癌関連タンパク質の予後予測マーカー応用を目指した取り組み. 第 9 回千葉疾患プロテオミクス研究会, 東京, 2012 年 11 月 24 日
13. 朝長 毅: 国内のプロテオミクス研究拠点の動向. 日本ヒトプロテオーム機構第 8 回大会 第 6 回日本臨床プロテオーム研究会連合会, 千葉, 2010 年 7 月 26-27 日
14. 朝長 毅: 近年のプロテオミクス技術の進歩とそれががん研究への応用. 第 69 回 日本癌学会学術総会, 大阪, 2010 年 9 月 22-24 日
15. 朝長 毅: 最近のプロテオミクスの進歩～ターゲットプロテオミクス: 翻訳後修飾解析と SRM を用いた絶対定量～第 33 回日本分子生物学会年会 第 83 回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2010 年 12 月 7-10 日
16. 久家貴寿: リン酸化プロテオーム解析による大腸癌バイオマーカー探索と検証. 第 7 回千葉疾患プロテオミクス研究会. 東京, 2010 年 11 月 13 日
17. 朝長 毅: 疾患関連バイオマーカー探索研究の現状と今後の方向性. 第 7 回北里疾患プロテオーム研究会, 神奈川, 2009 年 7 月 26 日
18. 朝長 毅: プロテオームリサーチセンターにおける疾患関連バイオマーカー探索研究. 日本ヒトプロテオーム機構 第 7 回大会, 東京, 2009 年 7 月 27-28 日
19. 朝長 毅: 最新プロテオーム解析技術を用いた疾患関連バイオマーカー探索研究. 第 82 回 日本生化学会大会, 神戸, 2009 年 10 月 21-24 日
20. 朝長 毅: プロテオーム解析の最新事情と基盤研プロテオームリサーチセンターの現状. 彩都バイオサイエンスセミナー 大阪, 2009 年 11 月 26 日.
21. 久米秀明, 渡邊史生, 村岡賢, 石濱泰, 小寺義男, 松下一之, 松原久裕, 朝長毅: 大腸癌組織膜タンパク質の大規模プロテオーム解析によるバイオマーカー探索とその検証. 第 10 回日本プロテオーム学会, 東京, 2012 年 7 月 26-27 日
22. 原 康洋, 宮本泰豪, 加藤菊也, 福岡順也, 朝長 毅: 細気管支肺胞上皮癌のプロテオーム解析によるバイオマーカー探索. 日本ヒトプロテオーム機構第 10 回大会, 東京, 2012 年 7 月 26-27 日
23. 村岡 賢, 久米秀明, 渡邊史生, 桑野晶喜, 足立 淳, 佐藤三佐子, 川崎直子, 石濱泰, 石飛 真人, 稲治 英生, 小寺 義男, 宮本泰豪, 加藤菊也, 朝長 毅: 乳癌膜タンパク質の大規模 iTRAQ-shotgun と SRM 解析によるバイオマーカータンパク質の検証 日本プロテオーム学会 2012 年大会, 東京, 2012 年 7 月 26-27 日
24. 久家貴寿, 久米秀明, 川崎直子, 足立淳, 星野 敢, 松原久裕, 朝長 毅: 大腸癌手術

- 標本の発現解析とインタラクトーム解析による新規癌関連タンパク質の同定. 日本プロテオーム学会 2012 年会, 東京, 2012 年 7 月 26-27 日
25. 足立 淳, 久家貴寿, 白水 崇, 久米秀明, 村岡賢, 橋口一成, 鳴海良平, 渡邊史夫, 桑野晶喜, 松本雅記, 中山敬一, 井倉正枝, 井倉 毅, 高田 穰, 朝長 毅: リン酸化プロテオミクスを用いた新規 DNA 損傷初期応答キナーゼの探索. 日本プロテオーム学会 2012 年会, 東京, 2012 年 7 月 26-27 日
26. 村上達夫, 久家貴寿, 足立 淳, 白水 崇, 宮本泰豪, 加藤菊也, 石飛真人, 稲治英生, 小寺義男, 朝長 毅: 大規模リン酸化プロテオーム解析と SRM/MRM によるヒト乳癌組織の検証法. 日本プロテオーム学会 2012 年会, 東京, 2012 年 7 月 26-27 日
27. 佐野聖三, 田上信次, 大河内正康, 渡邊史生, 熊谷久美子, 常見雅彦, 朝長 毅: Immuno-SRM/MRM 法を用いた血漿中のアルツハイマー病サロゲートマーカーペプチド APL1 β 定量のための前処理法の検討. 第 10 回日本プロテオーム学会, 東京, 2012 年 7 月 26-27 日
28. 白水 崇, 足立 淳, 朝長 毅: 同所性移植モデルによる大腸癌転移性株の定量的プロテオーム解析. 日本プロテオーム学会 2012 年大会, 東京, 2012 年 7 月 26-27 日
29. 川崎直子, 平野賢一, 原 康洋, 足立 淳, 渡邊史生, 朝長 毅: プロテオミクス、トランスクリプトミクスを用いた中性脂肪蓄積心筋血管症のバイオマーカー探索. 日本プロテオーム学会 2012 年大会, 東京, 2012 年 7 月 26 日-27 日
30. 小寺義男, 川島祐介, 斉藤達也, 佐藤 守, 曾川一幸, 朝長 毅, 前田忠計, 野村文夫: 血中診断マーカーペプチド獲得を目指した包括的なアプローチ. 日本プロテオーム学会 2012 年大会, 東京, 2012 年 7 月 26 日-27 日
31. 足立 淳, 久家貴寿, 白水 崇, 久米秀明, 村岡 賢, 橋口一成, 鳴海良平, 渡邊史生, 桑野晶喜, 松本雅記, 中山敬一, 井倉正枝, 井倉 毅, 高田 穰, 朝長 毅: DNA 損傷初期応答シグナル解析から創薬標的の探索へ. 第 10 回北里疾患プロテオーム研究会, 神奈川, 2012 年 8 月 23 日
32. 久米秀明, 村岡 賢, 小寺義男, 松下一之, 松原久裕, 朝長 毅: 大規模プロテオーム解析による大腸癌バイオマーカーの探索とその検証. 第 71 回日本癌学会, 札幌, 2012 年 9 月 19-21 日
33. 村岡 賢, 久米秀明, 足立 淳, 宮本泰豪, 加藤菊也, 小寺義男, 朝長 毅: A strategy for validation of biomarker candidates combining iTRAQ and SRM/MRM assay in breast cancer tissue samples. 第 71 回日本癌学会学術総会, 札幌, 2012 年 9 月 19-21 日
34. 久家貴寿, 久米秀明, 足立 淳, 星野 敢, 松原久裕, 朝長 毅: オミックス技術を駆使した新規大腸癌関連タンパク質の同定. 第 71 回日本癌学会学術総会, 札幌, 2012 年 9 月 19-21 日
35. 足立 淳, 久家貴寿, 白水 崇, 久米秀明, 村岡 賢, 中山敬一, 井倉 毅, 高田 穰, 朝長 毅: リン酸化プロテオミクスを用いた新規 DNA 損傷初期応答キナーゼの探索. 第 71 回日本癌学会学術総会, 札幌, 2012 年 9 月 19-21 日
36. 村上達夫, 久家貴寿, 足立 淳, 白水 崇, 中山敬一, 宮本泰豪, 加藤菊也, 小寺義男, 朝長 毅: ヒト乳がん組織の大規模リン酸化プロテオーム解析と SRM をベースにした検証法. 第 71 回日本癌学会学術総会, 札幌, 2012 年 9 月 19-21 日
37. 白水 崇, 足立 淳, 朝長 毅: Proteomic analysis of highly metastatic colorectal cancer cells established from orthotopic metastatic mouse model. 第 71 回日本癌学会学術総会, 北海道, 2012 年 9 月 19-21 日

38. 原 康洋, 宮本泰豪, 加藤菊也, 福岡順也, 朝長 毅: 細気管支肺胞上皮癌のプロテオーム解析によるバイオマーカー探索. 第71回日本癌学会学術総会, 札幌, 2012年9月19-21日
39. 松下一之, 石塚久子, 佐藤 守, 松原久裕, 島田英昭, 朝長 毅, 久保秀司, 吉田 稔, 野村文夫: c-myc 遺伝子転写抑制因子 FIR とスプライシング因子 SAP155 の結合による新規がん化メカニズムについて. 第71回日本癌学会学術総会, 北海道, 2012年9月19-21日
40. 橋口一成, 足立 淳, 渡邊史生, 朝長 毅: Quantitative proteome and phosphoproteome analyses of chromatin proteins upon oxidative base damage. 第36回日本分子生物学会年会, 福岡, 2012年12月11-14日
41. 渡部亮介, 足立 淳, 朝長 毅: Global quantitative phospho-proteomic analysis on the mTOR-mediated signaling pathway. 第35回日本分子生物学会, 福岡, 2012年12月11-14日
42. 原 康洋, 宮本泰豪, 加藤菊也, 福岡順也, 朝長 毅: 細気管支肺胞上皮癌のプロテオーム解析によるバイオマーカー探索. 第35回日本分子生物学会年会, 福岡, 2012年12月11-14日
43. 久保田 翔, 福本泰典, 青山和正, 石橋賢一, 盛永敬郎, 本田拓也, 久家貴寿, 朝長 毅, 山口直人: Src による KAP1 のチロシンリン酸化を介したヘテロクロマチン構造変換. 第133回日本薬学会年会, 横浜, 2013年3月27-30日
44. 白水 崇, 鳴海良平, 久家貴寿, 足立 淳, 松原久裕, 松本雅紀, 中山敬一, 朝長 毅: 大規模リン酸化プロテオーム解析による癌転移に関わる新規リン酸化シグナルの探索. 第63回日本細胞生物学会大会, 北海道, 2011年6月27-29日
45. 足立 淳, 鳴海良平, 佐野聖三, 久家貴寿, 白水 崇, 松本雅紀, 中山敬一, 井倉正枝, 井倉 毅, 高田 穰, 朝長 毅: DNA 損傷応答におけるリン酸化・ユビキチン化プロテオーム定量解析. 日本プロテオーム学会 2011 年会, 新潟, 2011年7月28-30日.
46. 原 康洋, 宮本泰豪, 加藤菊也, 朝長 毅: 細気管支肺胞上皮癌のプロテオーム解析によるバイオマーカー探索. 日本プロテオーム学会 2011 年会, 新潟, 2011年7月28-30日.
47. 久家貴寿, 鳴海良平, 村上達夫, 足立 淳, 白水 崇, 小寺義男, 松原久裕, 松本雅紀, 中山敬一, 朝長 毅: 大腸がん手術組織標本の定量的リン酸化プロテオーム解析. 日本プロテオーム学会 2011 年会, 新潟, 2011年7月28-30日
48. 越中屋里香, 久家貴寿, 足立 淳, 朝長 毅: 大腸癌組織の細胞核プロテオーム解析による染色体不安定性に関連するタンパク質の探索. 日本プロテオーム学会 2011 年会, 新潟, 2011年7月28-30日
49. 久米秀明, 鳴海良平, 渡邊史生, 石濱 泰, 松原久裕, 小寺義男, 朝長 毅: 大腸癌バイオマーカーとなる膜タンパク質の大規模プロテオーム解析と SRM による検証. 日本プロテオーム学会 2011 年会, 新潟, 2011年7月28-30日
50. 白水 崇, 鳴海良平, 久家貴寿, 足立 淳, 松原久裕, 松本雅紀, 中山敬一, 朝長 毅: ヒト大腸癌臨床検体を用いたリン酸化プロテオーム解析による新規転移因子の探索. 日本プロテオーム学会 2011 年会, 新潟, 2011年7月28-30日
51. 村岡 賢, 久米秀明, 渡邊史生, 川崎直子, 足立 淳, 鳴海良平, 石飛真人, 稲治英生, 宮本泰豪, 加藤菊也, 小寺義男, 朝長 毅: 乳癌膜タンパク質の大規模プロテオーム解析と SRM 解析による検証. 日本プロテオーム学会 2011 年会, 新潟, 2011年7月28-30日
52. 川崎直子, 平野賢一, 原 康洋, 足立 淳, 朝長 毅: プロテオミクス、トランスクリ

- プトミクスを用いた中性脂肪蓄積心血管症のバイオマーカー探索. 日本プロテオーム学会 2011 年会, 新潟, 2011 年 7 月 28-30 日
53. 渡邊史生, 田上真次, 佐野聖三, 熊谷久美子, 常見雅彦, 大河内正康, 朝長 毅: SISCAPA-SRM を用いた血漿中に pM レベルで存在するアルツハイマー病バイオマーカーペプチド APL18 の絶対定量. 日本プロテオーム学会 2011 年会, 新潟, 2011 年 7 月 28-30 日
 54. 佐野聖三, 田上真次, 大河内正康, 熊谷久美子, 常見雅彦, 小寺義男, 朝長 毅: SISCAPA-SRM を用いた血漿中のアルツハイマー病バイオマーカーペプチド APL18 定量のための前処理法の検討. 日本プロテオーム学会 2011 年会, 新潟, 2011 年 7 月 28-30 日
 55. 吉田 豊, 張 エイ, シャイマエナニー, 許波, 渡邊史生, 八尾板永信, 朝長 毅, 山本 格: 正常ヒト尿プロテオームの特徴: AKI バイオマーカーの多項目同時測定の基礎的検討. 日本プロテオーム学会 2011 年会, 新潟, 2011 年 7 月 28-30 日
 56. 足立 淳, 久家貴寿, 白水 崇, 中山敬一, 井倉 毅, 高田 穰, 朝長 毅: Global phosphorylation and ubiquitination dynamics in DNA-damage response network. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2011 年 10 月 3-5 日
 57. 原 康洋, 宮本泰豪, 加藤菊也, 朝長 毅: 細気管支肺胞上皮癌のプロテオーム解析によるバイオマーカー探索. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2011 年 10 月 3-5 日
 58. 久米秀明, 松原久裕, 小寺義男, 朝長 毅: 膜タンパク質の大規模プロテオーム解析による大腸癌バイオマーカーの探索と SRM 法を用いた検証. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2011 年 10 月 3-5 日
 59. 久家貴寿, 足立 淳, 白水 崇, 松原久裕, 中山敬一, 小寺義男, 朝長 毅: 大腸癌の定量的リン酸化プロテオーム解析. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2011 年 10 月 3-5 日
 60. 白水 崇, 鳴海良平, 久家貴寿, 足立 淳, 松原久裕, 松本雅紀, 中山敬一, 朝長 毅: Phosphoproteomic analysis of human colorectal cancer tissues for exploring a novel cancer metastatic biomarker. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2011 年 10 月 3-5 日
 61. Satoshi Muraoka, Hideaki Kume, Jun Adachi, Yasuhide Miyamoto, Kikuya Kato, Yoshio Kodera, Takeshi Tomonaga: A strategy for Shotgun Proteomics and SRM-based systematic validation of membrane proteins in breast cancer tissues. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2011 年 10 月 3-5 日
 62. 風見隆浩, 朝長 毅, 佐藤 守, 久家貴寿, 松下一之, 野村文夫: Annexin A2 の核内高発現はセントロメア損傷と染色体不安定性に関与する. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2011 年 10 月 3-5 日
 63. 松下一之, 梶原久子, 朝長 毅, 松原久裕, 島田英昭, 久保秀司, 吉田 稔, 野村文夫: c-myc 遺伝子転写抑制因子 FIR は SAP155 によりスプライシング変化を受け c-Myc の発現スイッチとして機能する. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2011 年 10 月 3-5 日
 64. 杉原 豊, 谷口浩和, 朝長 毅, 藤田 伸, 近藤 格: 大腸がんにおけるバイオマーカー研究のためのプロテオミクス. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2011 年 10 月 3-5 日
 65. 足立 淳, 鳴海良平, 佐野聖三, 久家貴寿, 白水 崇, 松本雅記, 中山敬一, 井倉正枝, 井倉 毅, 高田 穰, 朝長 毅: リン酸化プロテオミクスを用いた新規 DNA 損傷初期応答キナーゼの探索. 第 70 回日本癌

- 学会学術総会, 名古屋, 2011年10月3-5日
66. 足立 淳, 鳴海良平, 佐野聖三, 久家貴寿, 白水 崇, 松本雅記, 中山敬一, 井倉正枝, 井倉毅, 高田穰, 朝長 毅: リン酸化プロテオミクスを用いた新規 DNA 損傷初期応答キナーゼの探索. 34回日本分子生物学会年会, 横浜, 2011年12月13-16日
67. 原 康洋, 宮本泰豪, 加藤菊也, 朝長 毅: 細気管支肺胞上皮癌のプロテオーム解析によるバイオマーカー探索. 34回日本分子生物学会年会, 横浜, 2011年12月13-16日
68. 久米秀明, 鳴海良平, 渡邊史生, 石濱 泰, 松原久裕, 小寺義男, 福岡順也, 朝長 毅: 大腸癌組織膜タンパク質の大規模プロテオーム解析によるバイオマーカー探索と SRM/MRM 法を用いた定量法の確立および診断への応用. 34回日本分子生物学会年会, 横浜, 2011年12月13-16日
69. 久家貴寿, 足立 淳, 白水 崇, 村上達夫, 松原久裕, 松本雅記, 中山敬一, 福岡順也, 朝長 毅: 定量的リン酸化プロテオミクスとバイオインフォマティクスを用いた大腸がんリン酸化シグナル伝達機構の包括的理解. 34回日本分子生物学会年会, 横浜, 2011年12月13-16日
70. 村岡 賢, 久米秀明, 渡邊史生, 川崎直子, 足立 淳, 鳴海良平, 石飛真人, 稲治英生, 宮本泰豪, 加藤菊也, 小寺義男, 朝長毅: 乳癌膜タンパク質の大規模プロテオーム解析と SRM/MRM を用いたバイオマーカー候補タンパク質の検証および予後予測診断への応用. 34回日本分子生物学会年会, 横浜, 2011年12月13-16日
71. 村上達夫, 鳴海良平, 久家貴寿, 石飛真人, 稲治英生, 宮本泰豪, 加藤菊也, 小寺義男, 朝長 毅: SRM/MRM 法を用いたリン酸化ペプチドの定量法の確立. 34回日本分子生物学会年会, 横浜, 2011年12月13-16日
72. 川崎直子, 平野賢一, 原 康洋, 足立 淳, 白水 崇, 朝長 毅: プロテオミクス、トランスクリプトミクスを用いた中性脂肪蓄積心筋血管症のバイオマーカー探索. 34回日本分子生物学会年会, 横浜, 2011年12月13-16日
73. 渡邊史生, 田上真次, 佐野聖三, 熊谷久美子, 常見雅彦, 大河内正康, 朝長 毅: Immuno-SRM/MRM を用いた新規アルツハイマー病血漿バイオマーカーペプチド APL18 の絶対定量法の確立と臨床応用. 34回日本分子生物学会年会, 横浜, 2011年12月13-16日
74. 風見隆浩, 朝長 毅, 佐藤 守, 久家貴寿, 松下一之, 野村文夫: Overexpression of annexin A2 in the nucleus is involved in centromere damage and chromosomal instability. 34回日本分子生物学会年会, 横浜, 2011年12月13-16日
75. 東濃篤徳 坂手龍一, 高橋一郎, 足立 淳, 朝長 毅: カニクイザル白血球における細胞外カルレチキュリンによる遺伝子発現の変化. 34回日本分子生物学会年会, 横浜, 2011年12月13-16日
76. 竹内昌夫, 東濃篤徳, 竹内喜久子, 牧野初音, 田沼玲子, 足立 淳, 高橋一郎, 朝長 毅, 梅澤明弘, 亀岡洋祐: ヒト間葉系幹細胞株 (UE6E7T-3) の形質転換過程における mRNA 発現解析. 34回日本分子生物学会年会, 横浜, 2011年12月13-16日
77. 阿部紘平, 盛永敬郎, 久保田 翔, 石橋賢一, 幸龍三郎, 本田拓也, 久家貴寿, 福本泰典, 中山祐治, 朝長 毅, 山口直人: リソソームにおける c-Src のチロシンリン酸化基質の解析. 第132回日本薬学会年会, 札幌, 2012年3月28-31日
78. 盛永敬郎, 阿部紘平, 長谷川智津, 久家貴寿, 久保田 翔, 福本泰典, 中山祐治, 朝長 毅, 山口直人: 浮遊細胞における Lyn の高密度膜への集積化. 第132回日本薬学会年会, 札幌, 2012年3月

- 28-31 日
79. 田上真次, 柳田寛太, 児玉高志, 佐野聖三, 朝長 毅, 武田雅俊, 大河内正康: アルツハイマー病の発症予期診断バイオマーカー開発を目的とした脳脊髄液中のペプチド解析 amyloid beta42 のサロゲートマーカー、APL1beta28 について. 日本ヒトプロテオーム機構第 8 回大会 第 6 回日本臨床プロテオーム研究会連合会, 千葉, 2010 年 7 月 26-27 日
80. 斎藤達也, 川島祐介, 肥後大輔, 山岸陽子, 曾川一幸, 朝長 毅, 前田忠計, 野村文夫, 小寺義男: SRM 分析法を用いた血清中の診断マーカー候補タンパク質・ペプチドの定量分析. 日本ヒトプロテオーム機構第 8 回大会 第 6 回日本臨床プロテオーム研究会連合会, 千葉, 2010 年 7 月 26-27 日
81. 川島祐介, 福富俊之, 朝長 毅, 高橋広樹, 松井 崇, 野村文夫, 前田忠計, 小寺義男: 血清を対象とした疾患ペプチドミクス. 日本ヒトプロテオーム機構第 8 回大会 第 6 回日本臨床プロテオーム研究会連合会, 千葉, 2010 年 7 月 26-27 日
82. 高木さやか, 尾路祐介, 中村三千代, 福田茉莉, 中塚伸一, 青柳さやか, 辰巳直也, 朝長 毅, 三好新一郎, 根津理一郎, 青笹克之, 杉山治夫: eEF21gG 抗体は胃癌, 大腸癌, 乳癌, 非小細胞肺癌の早期診断に有用なマーカーである. 第 69 回日本癌学会学術総会, 大阪, 2010 年 9 月 22-24 日
83. 松下一之, 朝長 毅, 梶原寿子, 北村淳史, 佐藤 守, 島田英昭, 伊藤昭博, 松原久裕, 吉田 稔, 野村文夫: 新規抗癌剤スプライソスタチン A の細胞毒性には c-myc 転写抑制因子 FIR のスプライシング阻害を伴う c-Myc 発現増大がみられる. 第 69 回 日本癌学会学術総会, 大阪, 2010 年 9 月 22-24 日
84. 梶原寿子, 松下一之, 朝長 毅, 糸賀 栄, 佐藤 守, 島田英昭, 北村淳史, 松原久裕, 吉田 稔, 野村文夫: c-myc 転写抑制因子 FIR とスプライシング制御因子複合体 U2 snRNPs との相互作用メカニズムについて. 第 69 回 日本癌学会学術総会, 大阪, 2010 年 9 月 22-24 日
85. 北村淳史, 松下一之, 滝口裕一, 多田裕司, 山中満佳子, 廣島健三, 島田英昭, 田川雅俊, 松原久裕, 長谷川 護, 朝長 毅, 巽 浩一郎, 野村文夫: 悪性胸膜中皮腫細胞移植マウスモデルを用いた c-myc 転写抑制因子 FIR センダイウイルスベクターの治療効果. 第 69 回 日本癌学会学術総会, 大阪, 2010 年 9 月 22-24 日
86. 風見隆浩, 朝長 毅, 佐藤 守, 久家貴寿, 松下一之, 野村文夫: AnnexinA2 の核内高発現は染色体不安定性に関与する. 第 69 回日本癌学会学術総会, 大阪, 2010 年 9 月 22-24 日
87. 足立 淳, 松田知成: E3 ユビキチンリガーゼである芳香族炭化水素受容体 (AhR) の標的タンパク質の探索. 日本ヒトプロテオーム機構第 8 回大会 第 6 回日本臨床プロテオーム研究会連合会, 千葉, 2010 年 7 月 26-27 日
88. 足立 淳, 鳴海良平, 佐野聖三, 久家貴寿, 白水 崇, 松本雅記, 中山敬一, 茂木 章, 井倉 毅, 高田 穰, 朝長 毅: DNA 損傷応答ネットワークにおけるリン酸化・ユビキチン化修飾ダイナミクスのプロテオーム解析. 第 33 回日本分子生物学会年会 第 83 回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2010 年 12 月 7-10 日
89. 松田 俊, 足立 淳, 井原 賢, 井倉正枝, 井倉 毅, 松田知成: 芳香族炭化水素受容体 (AhR) 複合体のプロテオーム解析. 日本環境変異原学会第 39 回大会, 筑波, 2010 年 11 月 16 日
90. 久家貴寿, 鳴海良平, 松本雅記, 中山敬一, 松原久裕, 松下一之, 野村文夫, 朝長 毅: 大腸癌臨床検体を用いた定量的大規模リン酸化プロテオーム解析. 日本ヒトプロテオーム機構第 8 回大会 第 6

- 回日本臨床プロテオーム研究会連合会,
千葉, 2010年7月26-27日
91. 久家貴寿, 松下一之, 野村文夫, 松原久裕, 中山敬一, 朝長 毅: 大腸癌の大規模リン酸化プロテオーム解析. 第69回日本癌学会学術総会, 大阪, 2010年9月22-24日
 92. 久家貴寿, 鳴海良平, 村岡 賢, 足立 淳, 松本雅記, 中山敬一, 松原久裕, 松下一之, 野村文夫, 長野一也, 角田慎一, 朝長 毅: 大規模リン酸化プロテオーム解析による大腸癌バイオマーカー探索. 第33回日本分子生物学会年会, 第83回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2010年12月7-10日
 93. 盛永敬郎, 阿部紘平, 長谷川智津, 久家貴寿, 岡本 彩, 久保田 翔, 福本泰典, 中山祐治, 朝長 毅, 山口直人: Src型チロシンキナーゼ Lyn 会合分子の探索. 第54回日本薬学会関東支部大会, 東京, 2010年10月2日
 94. 久保田 翔, 福本泰典, 盛永敬郎, 石橋賢一, 青山和正, 中山祐治, 久家貴寿, 朝長 毅, 山口直人: Src型チロシンキナーゼ Lyn の核内基質の探索. 第54回日本薬学会関東支部大会, 東京, 2010年10月2日
 95. 盛永敬郎, 阿部紘平, 長谷川智津, 久家貴寿, 岡本 彩, 青山和正, 福本泰典, 中山祐治, 朝長 毅、山口直人: Lyn の細胞内輸送に関わる会合分子の解析. 第9回次世代を担う若手ファーマ・バイオフォーラム2010, 京都, 2010年10月2-3日
 96. 盛永敬郎, 阿部紘平, 長谷川智津, 久家貴寿, 久保田 翔, 久保田将一, 福本泰典, 中山祐治, 朝長 毅、山口直人: 接着細胞の浮遊化における膜係留型 Lyn の細胞内局在変化, 第32回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 富山, 2010年11月29-30日.
 97. 盛永敬郎, 阿部紘平, 長谷川智津, 久家貴寿, 青山和正, 久保田 翔, 福本泰典, 中山祐治, 朝長 毅、山口直人: 接着細胞の浮遊化における内膜局在化 Lyn のダイナミクス. 第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2010年12月7-10日
 98. 久保田翔, 福本泰典, 盛永敬郎, 石橋賢一, 青山和正, 中山祐治, 久家貴寿, 朝長 毅, 山口直人: Lyn のクロマチンにおけるチロシンリン酸化シグナリングの解析. 第131回日本薬学会年会, 静岡, 2011年3月28-31日
 99. 久米秀明 鳴海良平, 石濱 泰, 松原久裕, 松下一之, 野村文夫, 朝長 毅: 大腸癌組織膜タンパク質のプロテオーム解析. 日本ヒトプロテオーム機構第8回大会 第6回日本臨床プロテオーム研究会連合会, 千葉, 2010年7月26-27日
 100. 久米秀明, 松原久裕, 松下一之, 野村文夫, 朝長 毅: 大腸癌組織膜タンパク質のプロテオーム解析. 第69回日本癌学会学術総会, 大阪, 2010年9月22-24日
 101. 久米秀明, 鳴海良平, 石濱 泰, 松原久裕, 松下一之, 野村文夫, 朝長 毅: 大腸癌の新たなバイオマーカーとなる膜タンパク質の探索. 第33回日本分子生物学会年会 第83回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2010年12月7-10日.
 102. 原 康洋, 朝長 毅: 乳癌転移に関わる microRNA(miR-31)のターゲットタンパク質のプロテオーム解析. 日本ヒトプロテオーム機構第8回大会 第6回日本臨床プロテオーム研究会連合会, 千葉, 2010年7月26-27日
 103. 原 康洋, 朝長 毅: 乳癌転移に関わる microRNA(miR-31)のターゲットタンパク質のプロテオーム解析. 第69回日本癌学会学術総会, 大阪, 2010年9月22-24日
 104. 鳴海良平, 久家貴寿, 松本雅記, 中山敬一, 石飛真人, 稲治英生, 宮本泰豪, 加藤菊也, 朝長 毅: 定量的リン酸化プロテオミクスによる乳癌の予後不良群と予後

- 良好群の比較. 日本ヒトプロテオーム機構第8回大会 第6回日本臨床プロテオーム研究会連合会, 千葉, 2010年7月26-27日
105. 鳴海良平, 久家貴寿, 松本雅記, 中山敬一, 石飛真人, 稲治英生, 宮本泰豪, 加藤菊也, 朝長 毅: 定量的リン酸化プロテオミクスによる乳癌組織の予後不良群と予後良好群の比較. 第33回日本分子生物学会年会 第83回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2010年12月7-10日
106. 越中屋里香, 久家貴寿, 久米秀明, 鳴海良平, 足立 淳, 朝長 毅: 細胞核のプロテオーム解析による染色体不安定性関連タンパク質の探索. 日本ヒトプロテオーム機構第8回大会 第6回日本臨床プロテオーム研究会連合会, 千葉, 2010年7月26-27日
107. 越中屋里香, 久家貴寿, 久米秀明, 鳴海良平, 足立 淳, 朝長 毅: 大腸癌細胞の細胞核プロテオーム解析による染色体不安定性に関連するタンパク質の探索. 第33回日本分子生物学会年会 第83回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2010年12月7-10日
108. 佐野聖三, 田上真次, 大河内正康, 柳田寛太, 武田雅俊, 朝長 毅: MRM法におけるアルツハイマー病サロゲートマーカーAPL18の定量法の検討. 日本ヒトプロテオーム機構第8回大会 第6回日本臨床プロテオーム研究会連合会, 千葉, 2010年7月26-27日
109. 金川章子, 尾野雅哉, 朝長 毅: 2DICAL法を用いた腎癌血漿バイオマーカーの探索. 日本ヒトプロテオーム機構第8回大会 第6回日本臨床プロテオーム研究会連合会, 千葉, 2010年7月26-27日
110. 久我佳菜子, 曾川一幸, 佐藤 守, 川島祐介, 松下一之, 小寺義男, 朝長 毅, 前田忠計, 野村文夫: C型肝炎ウイルス由来の原発性肝細胞癌の高感度バイオマーカー探索. 日本ヒトプロテオーム機構 第7回大会, 東京, 2009年7月27-28日
111. 久家貴寿, 聶 華, 佐藤 守, 松下一之, 前島一博, 野村文夫, 朝長 毅: 癌の染色体不安定のプロテオーム解析~lamin B2の発現低下による染色体不安定性の誘導~. 日本ヒトプロテオーム機構第7回大会, 東京, 2009年7月27-28日
112. 北村淳史, 松下一之, 滝口裕一, 梶原久子, 多田裕司, 田川雅敏, 島田英昭, 廣島健三, 朝長 毅, 巽 浩一朗, 野村文夫: 悪性胸膜中皮腫に対するc-myc遺伝子転写抑制因子FIRを搭載したウイルスベクターによる治療法の開発. 第68回日本癌学会学術総会, 横浜, 2009年10月1-3日
113. 梶原寿子, 松下一之, 朝長 毅, 糸賀 栄, 松原久裕, 野村文夫: 癌におけるc-myc転写抑制因子FIRの転写とスプライシングの関連について. 第68回日本癌学会学術総会, 横浜, 2009年10月1-3日
114. 松下一之, 梶原寿子, 朝長 毅, 島田英昭, 糸賀 栄, 北村淳史, 野村文夫: 癌化におけるFBP-interacting repressor(FIR)のc-myc遺伝子転写抑制と遺伝子のスプライシングのリンクについて. 第68回日本癌学会学術総会, 横浜, 2009年10月1-3日
115. 風見隆裕, 朝長 毅, 聶 華, 佐藤 守, 久家貴寿, 松下一之, 野村文夫: Villin 1及びannexin A2は大腸癌細胞核内で高発現し、染色体不安定に関与する. 第68回日本癌学会学術総会, 横浜, 2009年10月1-3日
116. 堅田浩司, 朝長 毅, 松下一之, 佐藤 守, 花澤豊行, 小寺義男, 岡本美孝, 野村文夫: Plectin-1は癌細胞の遊走・浸潤を促進し、頭頸部癌の新しい予後因子マーカーとなる. 第68回日本癌学会学術総会, 横浜, 2009年10月1-3日
117. アブリーズマイヌル, 朝長 毅, 曾川一幸, 佐藤 守, ウブリジュレット, 松下一之, 小寺義男, 野村文夫: Three step 血中プ

- ロテオーム解析を用いた早期膀胱癌血清マーカーの同定. 第 68 回日本癌学会学術総会, 横浜, 2009 年 10 月 1-3 日
118. 外池百合恵, 松下一之, 朝長 毅, 西森孝典, 岡本美孝, 野村義男: ペリプラキンは咽頭と食道癌細胞株においてドセタキセル感受性と細胞運動亢進の双方に関与している. 第 68 回 日本癌学会学術総会, 横浜, 2009 年 10 月 1-3 日
119. パストゥラル エロディ, 山崎泰代, リッチィ ショーン, グッデナウ ダイアン, 朝長 毅, 野村文夫: 各癌における発癌性代謝システムの臨床的比較. 第 68 回日本癌学会学術総会, 横浜, 2009 年 10 月 1-3 日
120. 吉川真太郎, 曾川一幸, 梅村啓史, 佐藤守, 松下一之, 小寺義男, 朝長 毅, 横須賀 収, 野村文夫: 胆管癌の新たなバイオマーカー探索への血清プロテオーム解析. 第 68 回 日本癌学会学術総会, 横浜, 2009 年 10 月 1-3 日.
121. 久家貴寿, 聶 華, 松下一之, 野村文夫, 朝長 毅: Lamin B2 の発現低下による染色体不安定性の誘導. 第 68 回 日本癌学会学術総会, 横浜, 2009 年 10 月 1-3 日
122. 松田綾子, 黒野尚美, 河野千夏, 代田 梢, 平林明子, 堀埜睦美, 越中屋里香, 祖父江里奈, 佐々木優美, 安藤津矢子, 伊藤未来, 前田純夫: 大腸菌の cell-to-cell transformation に抑制的に関与する遺伝子の網羅的スクリーニング., 第 32 回日本分子生物学会年会, 横浜, 2009 年 12 月 9-12 日
123. 黒野尚美, 松田綾子, 越中屋里香, 祖父江里奈, 佐々木優美, 伊藤未来, 安藤津矢子, 前田純夫: 大腸菌の cell-to-cell transformation に必須あるいは促進的に関与する遺伝子の網羅的スクリーニング., 第 32 回日本分子生物学会年会, 横浜, 2009 年 12 月 9-12 日
124. 風見隆浩, 朝長 毅, 聶 華, 佐藤 守, 久家貴寿, 松下一之, 野村文夫: アネキシン A2 は大腸癌細胞の核に局在, 高発現し, 染色体不安定性に関与する. 第 32 回日本分子生物学会年会, 横浜, 2009 年 12 月 9-12 日
125. Adachi J, Narumi R, Sano S, Kuga T, Shiromizu T, Matsumoto M, Nakayama KI, Ikura M, Ikura T, Takata M Tomonaga T: Global phosphorylation and ubiquitination dynamics in DNA-damage response network. Asia Oceania Human Proteome Organization (AOHUPO) 6th congress, Beijing, China, 5-7 May, 2012.
126. Muraoka S, Kume H, Watanabe S, Kuwano M, Sato M, Kawasaki N, Adachi J, Ishitobi M, Inaji H, Miyamoto Y, Kato K, Kodera Y, Tomonaga T: A strategy for SRM-based large-scale validation of biomarker candidates discovered by iTRAQ method in limited breast cancer tissue samples. Asia Oceania Human proteome organization 6th Congress, Beijing, China, May 5-7, 2012.
127. Adachi J, Kuga T, Shiromizu T, Kume H, Muraoka S, Hashiguchi K, Narumi R, Watanabe S, Kuwano M, Matsumoto M, Nakayama KI, Ikura M, Ikura T, Takata M Tomonaga T "Phosphorylation dynamics in an early response of DNA damage signaling" HUPO2012 11th World Congress, Boston, U.S.A., 9-13 September, 2012.
128. Muraoka S, Kume H, Watanabe S, Kuwano M, Sato M, Kawasaki N, Adachi J, Ishitobi M, Inaji H, Miyamoto Y, Kato K, Kodera Y, Tomonaga T "A strategy for SRM-based systematic validation of biomarker candidates discovered by

- iTRAQ method in breast cancer tissue samples.” HUPO2012 11th World Congress, Boston, USA, September 9-13, 2012.
129. Shiromizu T, Adachi J, Tomonaga T: Quantitative proteomic profiling of orthotopic xenograft mouse model of colorectal cancer metastasis. HUPO2012 11th World Congress, Boston, USA, September 9-13, 2012.
130. Adachi J, Higo D, Watanabe S, Kuwano M, Hashimoto Y Tomonaga T: ATP Accessibility Screening (AAS), a high-throughput and high-resolution kinase analysis platform for signaling research. 2nd Copenhagen Bioscience Conference, Copenhagen, Denmark, 2-5 December, 2012.
131. Shio Watanabe, Shinji Tagami, Seizo Sano, Kumiko Yoshizawa-Kumagaye, Masahiko Tsunemi, Masayasu Okochi and Takeshi Tomonaga: Absolute quantitation of plasma biomarker peptides for Alzheimer disease at pico-molar level using SRM coupled with stable isotope standards and capture by anti-peptide antibodies. HUPO2011 10th World Congress, Geneva, Switzerland, 4-7 September, 2011.
132. Jun Adachi, Ryohei Narumi, Shozo Sano, Takahisa Kuga, Takashi Shiromizu, Masaki Matsumoto, Kei-ichi Nakayama, Masae Ikura, Tsuyoshi Ikura, Minoru Takata, Takeshi Tomonaga: Global phosphorylation and ubiquitination dynamics in DNA-damage response network. HUPO2011, Geneva, Switzerland, 4-7 September, 2011.
133. Shiromizu T, Narumi R, Kuga T, Adachi T, Matsubara H, Matsumoto M, Nakayama K, Tomonaga T: Phosphoproteomic analysis of clinical colon cancer specimen: Exploring a novel factor of cancer metastasis. HUPO 2011, Geneva, Swiss, September 2011.
134. Naoko Kawasaki, Kenichi Hirano, Yasuhiro Hara, Jun Adachi, Takashi Shiromizu, Takeshi Tomonaga “Biomarker Discovery for Triglyceride Deposit Cardiomyo-vasculopathy using Proteome and Transcriptome Analysis.” THE FIRST INTERNATIONAL SYMPOSIUM on Triglyceride Deposit Cardiomyo-vasculopathy & Neutral Lipid Storage Disease, Kyoto, November 26, 2011.
135. Jun Adachi, Matthias Mann, “The human urinary proteome analysis and high-accuracy proteome database, MAPU.” HUPO2010, Sydney, Australia, 20 September, 2010.
136. Tomonaga T, Wu D, Nomura F. Validation and functional analysis of a tumor marker candidate, eIF4H isoform 1, identified by 2DE. 3rd EuPA Congress, Stockholm, June 14-17, 2009.
137. Imai S., Tsunoda S. Yoshida Y, Nakagawa S., Fukuoka J., Tsutsumi Y.: A novel system for efficiently screening tumor-related proteins using antibody proteomics., HUPO 7th Annual World Congress Amsterdam 2008, Amsterdam (The Netherlands), 16 - 20 August, 2008.
138. Nagano K., Okamura T., Abe Y., Kamada H., Tsunoda S., Tsutsumi Y. : Antibody proteomics technology for efficient screening of tumor-related proteins using phage antibody library., Biomarker World Congress 2009,

- Philadelphia (U.S.A.), 27-29 May, 2009.
139. Nagano K., Okamura T., Yamashita T., Abe Y., Kamada H., Tsunoda S., Tsutsumi Y.: Search for tumor-related biomarker proteins by antibody proteomics technology. HUPO 8th Annual World Congress, Toronto 2009, Toronto (Canada), 26-30 September, 2009.
140. Nagano K., Yamashita T., Imai S., Abe Y., Yoshikawa T., Yoshioka Y., Kamada H., Tsutsumi Y., Tsunoda S.: Identification and evaluation of novel breast cancer related biomarker proteins by antibody proteomics technology., 21st Meeting of the European Association for Cancer Research., Oslo (Norway), 26-29 June, 2010.
141. Nagano K., Yamashita T., Watanabe T., Kanasaki S., Yoshikawa T., Yoshioka Y., Abe Y., Kamada H., Tsutsumi Y., Tsunoda S. : Identification of lymph node metastasis-related proteins in lung cancer by antibody proteomics technology., HUPO2010 World Congress, Sydney (Australia), 19-23 September, 2010
142. Kanasaki S., Nagano K., Yamashita T., Watanabe T., Maeda Y., Zhao X., Yoshikawa T., Yoshioka Y., Itoh N., Abe Y., Kamada H., Tsutsumi Y., Tsunoda S. : Expression and functional analysis of ephrin receptor A10 in triple negative breast cancer., 2010 FAPA CONGRESS, Taipei (Taiwan), 5-8 November, 2010.
143. Kamada H., Abe Y., Nagano K., Tsutsumi Y., Tsunoda S. : The search for a biomarker of hepatic injury expressed by sinusoidal endothelial cells., HUPO2011(10th World Congress), Geneva(Switzerland), 4-7 September, 2011.
144. Nagano K., Yamashita T., Kanasaki S., Maeda Y., Imai S., Abe Y., Kamada H., Nakagawa S., Tsutsumi Y., Tsunoda S. : The relationship between oxysterol binding protein like 5 and calumenin during lymph node metastasis., The 2011 European Multidisciplinary Cancer Congress (2011 Stockholm Cancer Congress), Stockholm (Sweden), 23-27 September, 2011.
145. Kamada H., Yamashita T., Kanasaki S., Maeda Y., Inoue M., Nagano K., Abe Y., Tsutsumi Y., Tsunoda S. : Detection of drug-target proteins on tumor-derived exosomes by ELISA using anti-CD81 antibodies, EACR-22, Barcelona (Spain), 7-10 July, 2012.
146. Nagano K., Yamashita T., Kamada H., Kanasaki S., Maeda Y., Inoue M., Katayama S., Yoshioka Y., Abe Y., Tsutsumi Y., Tsunoda S. : Proteome analysis of lung cancer cell-derived exosomes for discovery of diagnostic biomarkers, HUPO 11th Annual World Congress (HUPO 2012), Boston (USA), 9-13 September, 2012.
147. 吉田康伸, 今井 直, 長野一也, 岡村賢孝, 阿部康弘, 鎌田春彦, 角田慎一, 堤 康央: 抗体プロテオミクスによるがんリンパ節転移マーカーの探索, 第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会 合同大会, 神戸 (兵庫), 2008 年 12 月
148. .長野一也, 今井 直, 中川晋作, 角田慎一, 堤 康央: 疾患プロテオミクスからバイオマーカーの創出へー抗体プロテオミクス技術の確立とがん関連マーカーの探索ー., 日本薬学会 第 129 年回, 京都 (京都), 2009 年 3 月 (大学院生シン

- ポジウム)
149. 長野一也, 角田慎一, 堤 康央: 抗体プロテオミクス技術による肺がん関連バイオマーカー蛋白質の探索., 平成 21 年度がん特定若手研究者ワークショップ, 茅野(長野), 2009 年 9 月.
 150. 金崎聡一郎, 長野一也, 山下琢矢, 岡村賢孝, 渡邊貴信, 阿部康弘, 鎌田春彦, 角田慎二, 堤 康央: Ephrin receptor A10 の新規乳がん創薬標的としての有用性評価., 第 26 回日本 DDS 学会学術集会, 大阪(大阪), 2010 年 6 月.
 151. 長野一也, 山下琢矢, 岡村賢孝, 小泉桂一, 済木育夫, 堤 康央, 角田慎一: 新規乳がん関連蛋白質 EphA10 および RREB-1 の転移との関連解析., 第 19 回日本がん転移学会, 金沢(石川), 2010 年 6 月.
 152. 長野一也: 抗体プロテオミクス技術による創薬バイオマーカーたんぱく質の効率的探索., 第 60 回日本薬学会近畿支部総会・大会, 大阪(大阪), 2010 年 10 月
 153. 金崎聡一郎, 長野一也, 山下琢矢, 前田祐香, 阿部康弘, 鎌田春彦, 角田慎一: 腫瘍血管新生に及ぼす Exosome の生理機能の解明., 第 61 回日本薬学会近畿支部総会・大会., 神戸(兵庫), 2011 年 10 月
 154. Yamashita T., Nagano K., Kanasaki S., Maeda Y., Furuya T., Inoue M., Abe Y., Kamada H., Tsunoda S.: Membrane proteome analysis of exosomes for lung cancer diagnosis., 第 5 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム., 名古屋(愛知), 2011 年 11 月
 155. 鎌田春彦, 山下琢矢, 長野一也, 前田祐香, 阿部康弘, 吉川友章, 吉岡靖雄, 堤 康央, 角田慎一: がん細胞分泌エクソソームのプロテオーム解析によるバイオマーカー候補蛋白質の探索., 日本プロテオーム機構 第 10 回大会, 東京, 2012 年 7 月
 156. Nagano K., Yamashita T., Maeda Y., Yoshioka Y., Abe Y., Kamada H., Tsutsumi Y., Tsunoda S.: Identification of lymph node metastasis-related proteins in lung cancer by antibody proteomics technology., 第 71 回日本癌学会学術集会., 札幌(北海道), 2012 年 9 月
 157. Satoshi Serada, Minoru Fujimoto, Fumitaka Terabe, Teppei Nishikawa, Tadamitsu Kishimoto, Tetsuji Naka: Proteomics-based identification of leucine rich alpha 2 glycoprotein (LRG) as a novel biomarker associated with disease activity of inflammatory autoimmune disorders. 第 39 回日本免疫学会総会 2009 年 12 月 2 日~4 日, 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)
 158. A. Kim, S. Serada, T. Takahashi, B. Ripley, Y. Souma, M. Fujimoto, T. Naka: Enhanced expression of Annexin A4 in clear cell carcinoma of the ovary and its association with chemoresistance to carboplatin. ECCO 15 - 34th ESMO Multidisciplinary Congress Internationale Congress Centrum Berlin (ICC Berlin), Berlin, Germany from Sunday 20 to Thursday 24 September 2009.
 159. S. Matsuzaki, S. Serada, T. Naka: EXPRESSION OF ANNEXIN A4 AT ENDOMETRIAL CANCER AND RELATION TO CARBOPLATIN SENSITIVITY. ESMO - European Society for Medical Oncology (ESMO), Milan, 8-12 October 2010.
 160. Shinya Matsuzaki, Serada Satoshi, Kim Ayako, Takuhei Yokoyama, Takashi Miyatake, Yutaka Ueda, Masami Fujita, Takayuki Enomoto, Tadashi Kimura, Testuji Naka: Expression of Annexin A4 at

- endometrial cancer and relation to carboplatin sensitivity. 第 69 回日本癌学会 大阪国際会議場, リーガロイヤルホテル大阪, 2010 年 9 月
161. Satoshi Serada, Minoru Fujimoto, Fumitaka Terabe, Teppei Nishikawa, Tadimitsu Kishimoto, Tetsuji Naka: Leucine rich alpha 2 glycoprotein (LRG) is a novel biomarker for monitoring disease activity during therapy in patients with inflammatory autoimmune disease. 第 14 回国際免疫会議, 神戸国際展示場, 2010 年 8 月
162. 世良田聡, 藤本 穰, 寺部文隆, 西川哲平, 仲 哲治: 自己免疫疾患の新規活動性マーカーとしての leucine rich alpha 2 glycoprotein, 第 8 回日本プロテオーム学会, 東京ベイホテル東急, 2010 年 7 月
163. Noriko Umegaki, Katsuto Tamai, Keisuke Nimura, Satoshi Serada, Tetsuji Naka, Takehiko Yamazaki, Hajime Nakano, Yasufumi Kaneda, Ichiro Katayama: Investigation of roles and molecular mechanisms of karyopherin alpha2 in keratinocyte proliferative disorders. European Society for Dermatological Research. Helsinki, Finland. 9/11 2010.
164. Takuhei Yokoyama, Takayuki Enomoto, Satoshi Serada, Shinya Matsuzaki, Toshihiro Kimura, Yutaka Ueda, Masami Fujita, Kiyoshi Yoshino, Ayako Kim, Minoru Fujimoto, Tadashi Kimura, Tetsuji Naka: Quantitative proteomic analysis of cell-surface membrane proteins: Biomarker discovery in endometrial cancer AACR 2011 4/2-4/6 Wed, Apr 6.
165. L. Yang, M. Fujimoto, S. Serada, H. Murota, B. Ripley, S. Kitaba, Y. Kotobuki, T. Naka, I. Katayama: PERIOSTIN GENE KNOCKOUT IS PROTECTIVE AGAINST THE DEVELOPMENT OF BLEOMYCIN-INDUCED MURINE SKIN SCLERODERMA EULAR 2011 5/25-28, London.
166. S. Serada, B. Ripley, M. Fujimoto, F. Terabe, L. Yang, T. Nishikawa, T. Naka: LEUCINE RICH ALPHA 2 GLYCOPROTEIN (LRG) AS A NOVEL BIOMARKER FOR MONITORING DISEASE ACTIVITY DURING THERAPY IN PATIENTS WITH INFLAMMATORY AUTOIMMUNE DISEASE. EULAR 2011 5/25-28., London.
167. Satoshi Serada, Takuhei Yokoyama, Takayuki Enomoto, Shinya Matsuzaki, Akiko Morimoto, Ayako Kim, Minoru Fujimoto, Tadashi Kimura, Tetsuji Naka: 定量的プロテオーム解析による子宮内膜癌抗原蛋白質の探索 第 9 回日本プロテオーム学会 2011 年 7 月 28 日 ~29 日 新潟市朱鷺メッセ
168. Satoshi Serada, Minoru Fujimoto, Fumitaka Terabe, Tetsuji Naka: Leucine rich alpha 2 glycoprotein (LRG) is a novel biomarker for monitoring disease activity in patients with Ulcerative Colitis. 第 40 回日本免疫学会総会 2011 年 11 月 27 日 ~29 日 幕張メッセ (千葉市)
169. Yori-hisa Kotobuki, Kanako Ontsuka, Satoshi Serada, Hiroshi Shiraishi, Atsushi Tanemura, Shoichiro Ohta, Lingli Yang, Tetsuji Naka, Kenji Izuhara, and Ichiro Katayama: Periostin, a matricellular protein, accelerates wound repair by activating dermal fibroblasts. 第 36 回日本研究皮膚科学会学術大会・総会: 2011 年 12 月 9 日 ~11 日 国立京都国際会館
170. Satoshi Serada, Yori-hisa Kotobuki,

- Atsushi Tanemura, Ichiro Katayama, Tetsuji Naka: Quantitative proteomic analysis of tumor growth associated proteins in cutaneous malignant melanoma. 103rd Annual Meeting of the American Association for Cancer Research; 2012 Mar 31-Apr 4, Chicago, Illinois. Philadelphia (PA): AACR; 2012 Mon, Apr 2, 103rd Annual Meeting of the American Association for Cancer Research, Mar 31-Apr 4 2012., Chicago, Illinois.
171. Akiko Morimoto, Takayuki Enomoto, Satoshi Serada, Shinya Matsuzaki, Takuhei Yokoyama, Yutaka Ueda, Masami Fujita, Kiyoshi Yoshino, Minoru Fumimoto, Tadashi Kimura, Tetsuji Naka: Annexin A4 induces chemoresistance for multiple drugs in ovarian clear cell carcinoma. AACR2012, Apr 3 2012, Chicago, Illinois.
172. Yang S. Serada, M. Fujimoto, H. Murota, Y. Kotobuki, S. Kitaba, T. Naka, T.: PERIOSTIN, A NOVEL MATRICELLULAR PROTEIN, IS REQUIRED FOR CUTANEOUS SCLEROSIS IN A MOUSE MODEL OF SCLERODERMAL. EULAR 2012 Berlin, Germany 6 - 9 June 2012.
173. Satoshi Serada, Tsuyoshi Takahashi, Maiko Urase, Minoru Fujimoto, Emi Harada, Toshiro Nishida, Tetsuji Naka: Quantitative phospho-proteomic analysis of gastrointestinal stromal tumors associated with imatinib resistance. 定量的リン酸化プロテオーム解析による消化管間質腫瘍のイマチニブ耐性因子の探索, 第10回日本ヒトプロテオーム学会2012年7月26日-27日 日本科学未来館
174. L. Yang, H. Murota, M. Fujimoto, S. Serada, M. Yong, T. Ohkawara, T. Naka, I. Katayama : UP-REGULATION OF INTERLEUKIN 8 AND CXC CHEMOKINE LIGAND 1 BY COLD STIMULATION IN HUMAN DERMAL MICROVASCULAR ENDOTHELIAL CELLS: A ROLE IN WINTER ULCERATION AND COLD URTICARIA. International Cytokine Society 10th joint Annual meeting, 11th-14th September, Geneva-Switzerland
175. Y. Mei, M. Fujimoto, T. Ohkawara, L. Yang, S. Serada, S.-I. Tsunoda, T. Naka: INTERLEUKIN (IL)-6 DEFICIENCY DOES NOT AFFECT MOTOR NEURON DISEASE CAUSED BY SUPEROXIDE-DISMUTASE 1 MUTATION International Cytokine Society 10th joint Annual meeting, 11th-14th September, Geneva-Switzerland.
176. Satoshi Serada, Minoru Fujimoto, Tetsuji Naka: Heterogeneous Nuclear RNP-K Is a Novel Cold-Related Autoantigen in Patients with Raynaud's Phenomenon. 2012 ACR/ARHP Annual Meeting, in Washington, DC, November 09 -14, 2012. November 12 (ACR 2012 第78回米国リウマチ学会議)
177. Nakayama, K.I., Onoyama, I., Tsunematsu, R., Matsumoto, A., Nakayama, K.: Conditional inactivation of Fbxw7 results in a defect in cell cycle exit and tumorigenesis. Cold Spring Harbor Symposium "The Cell Cycle". (Invited speaker) Cold Spring Harbor, NY. 5/18 (2008).
178. Nakayama, K.I.: Cell cycle control

- during T-cell development.
Japan-German Immunology Seminar
"International Conference on Immune
Regulation in Health and Disease".
(Invited speaker) Fukuoka.11/5 (2008).
179. Nakayama, K.I.: Two ubiquitin ligases control cell cycle in stem, progenitor, and differentiated cells. The 2nd Global COE International Symposium joint with the 18th Hot Spring Harbor Symposium of Medical Institute of Bioregulation, Kyushu University "Stem Cells and Regenerative Medicine". (Invited speaker) Fukuoka.11/9 (2008).
180. Nakayama, K.I.: Two F-box prtoteins Skp2 and Fbw7 control cell cycle exit and re-entry. ZOMES V: The Fifth International Symposium on the COP9 signalosome, Proteasome, and eIF3: At the interface between signaling & proteolysis. (Invited speaker) Yokohama.11/12 (2008).
181. Nakayama, K.I., Yumimoto, K., Matsumoto, M.: Comprehensive elucidation of enzyme-substrate relationship by differential proteomics. The 4th International Workshop on Cell Regulations in Division and Arrest. (Invited speaker) Onna, Okinawa, Japan.12/2 (2009).
182. Nakayama, K.I., Yumimoto, K., Matsumoto, M.: Comprehensive elucidation of enzyme-substrate relationship by proteomics: Say good-bye to western blotting. 6th Global-COE International Symposium: New Horizons for Modern Science - Biology and Medicine at the Crossroads. (Invited speaker) Fukuoka.8/19 (2010).
183. Nakayama, K.I.: Comprehensive elucidation of enzyme-substrate relationship in ubiquitylation by differential proteomics: Say good-bye to western blotting. MEXT Priority Research Project "Cell Proliferation Control" International Symposium "Cell Cycle and Cell Differentiation: From A to Z". (Invited speaker) Nagoya.11/6 (2010).
184. 中山敬一: 次世代プロテオミクスが拓く生命科学研究の新地平: もうウェスタンブロットィングは要らない?! 第33回日本分子生物学会年会. (パイオニアズレクチャー) 神戸.12/9 (2010).
185. 中山敬一: 次世代プロテオミクスによるユビキチンシステムの全貌解明. 第28回日本医学会総会. (シンポジウム) 東京.4/9 (2011).
186. Nakayama, K.I., Yumimoto, K., Matsumoto, M., Oyamada, K., Morioishi, T.: Comprehensive and unbiased identification of substrates for ubiquitin ligases by differential proteomic analysis. Cold Spring Harbor Symposium "The Ubiquitin Family". (Invited speaker) Cold Spring Harbor, NY.5/18 (2011).
187. Nakayama, K.I.: Road to absolute quantification of all human proteins by large-scale targeted proteomics. The 5th International Workshop on Cell Regulations in Division and Arrest. (Invited speaker) Onna, Okinawa, Japan.10/26 (2011).
188. Nakayama, K.I.: Cell cycle, metabolism, and signal transduction in cancer revealed by next-generation proteomics. 2012 American Association for Cancer Research Annual Meeting. (Invited speaker) Chicago, USA.3/31 (2012).

189. Nakayama, K.I.: Comprehensive profiling of cancer metabolism by the next generation proteomics. 10th Stem Cell Research Symposium. (Invited speaker) Awaji.5/31 (2012).
190. Nakayama, K.I.: Comprehensive and unbiased identification of substrates for ubiquitin ligases by differential proteomics analysis. HUPO 2012 11th World Congress. (Invited speaker) Boston, MA.9/12 (2012).
191. 秋元義弘, 三浦ゆり, 戸田年総, Hart, G. W., 遠藤玉夫, 川上速人: 糖尿病角膜症に伴うタンパク質への糖 (O-GlcNAc) 修飾の変化, 日本顕微鏡学会第 68 回学術講演会, つくば, 2012.5.14
192. Akimoto, Y., Miura, Y., Toda, T., Wolfert, M. A., Wells, L., Boons, G. -J., Hart, G. W., Endo, T. and Kawakami, H.: Detection of O-GlcNAcylated proteins by glycoproteomics and in situ proximity ligation assay (PLA), 第 14 回国際組織細胞化学会議 (ICHC 2012) / 第 53 回日本組織細胞化学会総会, 京都, 2012.2.29
193. 荒川憲昭: セクリトーム解析による新規卵巣癌マーカーの同定と臨床の有用性. 日本電気泳動学会, 沖縄コンベンションセンター, 宜野湾, 2012.8.20
194. 荒川憲昭: セクリトーム解析による卵巣明細胞腺癌血清マーカーの開発. 北里疾患プロテオーム研究会, 北里大学相模原キャンパス, 相模原, 2012.8.23
195. Arakawa, N., Ohtake, N., Nomura, A., Morita, E., Miyagi, E., Hirahara, F. and Hirano, H.: Secretome Analysis of ovarian cancer cell lines leads to discovery of a novel diagnostic marker for ovarian clear cell adenocarcinoma. HUPO2012, ハイイツ・コンベンションセンター, ボストン, 2012.9.9
196. Arakawa, N., Ohtake, N., Nomura, A., Morita, E., Miyagi, E., Hirahara, F., and Hirano, H.: Identification of a new biomarker for ovarian clear cell adenocarcinoma by secretome analysis of cancer cell lines. AOHUPO2012, 北京, チャイナ・ナショナル・コンベンションセンター, 2012.5.5
197. 荒川憲昭, 大竹則久, 野村文子, 森田絵理奈, 宮城悦子, 平原史樹, 平野 久: セクリトーム解析による新規卵巣癌血清診断マーカーの探索と同定. JHUPO, 東京, 2012.7.26
198. 平野 久: たんぱく質のはたらきと病気, 先端医科学研究センター市民講座, 横浜, 2012.4.23
199. Hirano, H.: Proteomics of co- and post-translational modifications of large protein complexes. 6th Congress of Asia and Oceania Human Proteome Organisation, Beijing, China, 2012.5.7-7
200. 平野 久: Phos-tag アフィニティ電気泳動と DIGE によって見えるタンパク質のリン酸化状態の変動日本電気泳動学会シンポジウム, 沖縄, 2012.5.11
201. 平野 久: 卵巣明細胞腺癌に対する創薬標的および診断マーカーの探索 厚生労働科学研究費医薬基盤研究所公開シンポジウム, 東京, 2012.6.7
202. 平野 久: プロテオーム分析技術の開発、体系化と生命医科学研究への応用 日本プロテオーム学会 2012 年会, 日本科学未来館, 東京, 2012.7.26-27
203. 平野 久: 血液中バイオマーカー探索のプロテオミクス, AB Sciex シンポジウム, 大阪および東京, 2012.8.28 および 8.30
204. 井野洋子: Phosphoproteomics in androgen-independent prostate cancer, 日本ヒトプロテオーム機構 第 10 回大会, 日本未来科学館, 東京都江東区, 2012.07.26-27

205. 井野洋子: 前立腺癌のアンドロゲン非依存性に関するリン酸化タンパク質の探索, 第63回日本電気泳動学会総会, 沖縄コンベンションセンター, 沖縄県宜野湾市, 2012.08.20-21
206. 井野洋子: Phosphoproteomic analysis of androgen-independent prostate cancer cells, HUPO 11th Annual World Congress, Hynes Convention Center, Boston, Massachusetts, 2012.09.09-13
207. 紙田正博, 木村弥生, 井野洋子, 倉田洋一, 山田哲司, 尾野雅哉, 平野 久: 出芽酵母リボソームタンパク質のNa⁺-アセチル化とそれがタンパク質合成に及ぼす影響, 日本プロテオーム学会 2012 年会, 日本科学未来館, 東京, 2012.7.23
208. Kimura, A., Nomura, A., Kawakami, T., Arakawa, N. and Hirano, H.: Identification of the phosphoproteins implicated in the high malignancy of ovarian clear cell adenocarcinoma using comparative LC-MS/MS-based proteomic approach. 11th annual world congress HUPO 2012, Hynes Convention Center, Boston, 2012. 9. 9-13
209. 木村鮎子, 野村文子, 川上隆雄, 荒川憲昭, 平野 久: 卵巣明細胞腺癌の悪性度に関わるリン酸化タンパク質の網羅的な解析, 日本ヒトプロテオーム機構 第10回大会, 日本科学未来館, 東京, 2012. 7. 26-27
210. 倉田洋一, 木村弥生, 紙田正博, 山中結子, 石川晃代, 岡本裕之, 正岡哲治, 名古屋博之, 荒木和男, 森山俊介, 森 司, 平野 久: サケ脳下垂体プロテオームに対する成長ホルモンの影響, 日本ヒトプロテオーム研究機構 第10回大会, 日本科学未来館, 東京, 2012.7.23
211. 増石有佑, 木村弥生, 平野 久: GPI アンカー型タンパク質の網羅的解析法の開発, Proteomic Analysis of GPI-anchored protein, 日本プロテオーム学会 2012 年大会, 日本科学未来館, 東京, 2012.7.27
212. 斎藤真奈美, 山下暁郎, 岡山明子, 和田佳行, 平野 久, 島田 勝: 質量分析法でヒトパピローマウイルスの感染に関わる細胞因子の同定, 日本プロテオーム学会 2012 年大会, 日本科学未来館, 東京, 2012.7.27
213. 菅原経継, 木村弥生, 戸田年総, 平野 久: Phos-tag 親和性電気泳動法を用いたヒトプロテオームサブユニットのリン酸化状態の解析 日本ヒトプロテオーム機構 第10回大会, 日本科学未来館, 東京, 2012. 7. 27
214. 高橋枝里, 久保田浩之, 奥村彰規, 佐藤恵美, 平野 久, 鏑木康志: KK-Ay マウス血清を用いた2型糖尿病関連因子の探索, 第49回日本臨床分子医学会学術集会, みやこめっせ, 京都, 2012.4.13
215. 高橋枝里, 久保田浩之, 奥村彰規, 佐藤恵美, 平野 久, 鏑木康志: KK-Ay マウス血清を用いた2型糖尿病関連因子の探索, 第55回日本糖尿病学会年次学術集会, パシフィコ横浜 パンパシフィック横浜ベイホテル東急, 横浜, 2012.5.18
216. 高橋枝里, 久保田浩之, 本間綾香, 平野 久, 鏑木康志: 2DICAL を用いた糖尿病性細小血管症関連蛋白質の探索, 日本プロテオーム学会 2012 年大会, 日本科学未来館, 東京, 2012.7.27
217. 高橋枝里: 血清プロテオーム解析による2型糖尿病関連因子の探索, 第34回日本分子生物学会年会, パシフィコ横浜, 横浜, 2011.12.14
218. 高橋枝里: KK-Ay マウス血清を用いた2型糖尿病関連因子の探索, 第55回日本糖尿病学会年次学術集会, パシフィコ横浜 パンパシフィック横浜ベイホテル東急, 横浜, 2012.5.18
219. 高橋枝里: 2DICAL を用いた糖尿病性細小血管症関連蛋白質の探索, 日本プロテ

- オーム学会 2012 年大会, 日本科学未来館, 東京, 2012.7.27
220. 野村文子, 荒川憲昭, 大胡田慎一郎, 勝山真人, 平野 久: 血管型 NADPH オキシダーゼのレドックスシグナルのプロテオミクス解析, 日本生化学会大会 第 85 回大会, 福岡国際会議場, 福岡, 2012.12.14-16
221. Akama, K., Horikoshi, T., Nakayama, T., Otsu, M., Imaizumi, N., Nakamura, M., Toda, T., Inuma, M., Kondo, Y., Suzuki, Y. and Inoue, N. Proteomic identification of differentially expressed genes during the differentiation from embryonic stem cells of cynomolgus monkey (*Macaca fascicularis*) to neural stem cells in vitro. 10th Human Proteome Organisation World Congress, Geneva, Switzerland, 2011.9.3-7.
222. 荒川憲昭: 卵巣明細胞腺がん装薬標的分子, 診断マーカーの探索, 横浜市開港記念会館, 横浜, 第 62 回日本電気泳動学会総会, 2011.11.13
223. 荒川憲昭, 森田絵理菜, 宮城悦子, 平原史樹, 平野 久: 卵巣明細胞腺癌のセクレトーム解析, 東京ベイホテル, 浦安, 日本プロテオーム機構 2010 年会, 2010.7.26.
224. 平野 久: 翻訳後修飾のプロテオミクス, 日本プロテオーム学会 2011 年会, 新潟, 2011.7.28.
225. 平野 久: Phos-tag によるリン酸化蛋白質のショットガン分析, Phos-tag 親和電気泳動, 日本生化学会年会, 京都, 2011.9.24.
226. 平野 久: 創薬標的分子と診断マーカー探索のプロテオミクス, 第 69 回 今堀アイバイオフィオーラム, 東京, 2011.10.12.
227. 平野 久: GE ヘルスケア DIGE User's Day, 電気泳動によって見えるタンパク質の翻訳後修飾, 東京, 2011.11.10.
228. Hirano, H.: Identification and functional analysis of co- and post-translational modifications of large protein complexes. Korean Human Proteome Organization, 10th Annual Congress, Busan, Korea, 2011.4.1-2.
229. 平野 久, 木村弥生, 菊池有理亜, 岩船裕子, 秋山知子, 岡山明子, 中村浩規, 荒川憲昭: 翻訳後修飾のプロテオミクス, 日本電気泳動学会シンポジウム, 山口大学医学部, 宇部市, 2011.5.9.
230. 木村鮎子, 加藤 悠, 平野 久: 19S 複合体サブユニット Rpt2 の N-ミリストイル化修飾はプロテアソームの細胞内局在を制御する, パシフィコ横浜, 神奈川, 第 34 回 日本分子生物学会年会, 2011.12.13-16.
231. 木村鮎子, 酒井和徳, 野村文子, 川上隆雄, 荒川憲昭, 平野 久: 非標識定量リン酸化プロテオミクス手法を用いた卵巣明細胞腺癌(CCA)の悪性度に関わるリン酸化タンパク質群の探索, 朱鷺メッセ, 新潟, 日本プロテオーム機構第 9 回大会, 2011. 7.28-30.
232. 木村弥生, 永田佳代子, 石川晃代, 平野 久: 酵母プロテアソームサブユニットの N 末端メチル化, 朱鷺メッセ, 新潟, 日本プロテオーム学会 2011 年大会, 2011.7.28-30.
233. 永田佳代子, 柳澤侑哉, 野村文子, 木村弥生, 佐久間祐司, 宮城洋平, 平野 久: イマチニブ二次耐性 GIST のリン酸化プロテオーム解析, 朱鷺メッセ, 新潟, 日本プロテオーム学会 2011 年大会, 2011.7.28-30.
234. 野村文子, 荒川憲昭, 山中結子, 勝山真人, 平野 久: 血管型 NADPH オキシダーゼの標的タンパク質の解析, 横浜市開港記念会館, 横浜, 第 62 回日本電気泳動学会総会, 2011.11.12-13.

235. 岡山明子, 宮城洋平, 尾下文浩, 梁 明秀, 平野 久: プロテオミクス解析による早期肺腺癌の予後予測マーカー及び治療標的候補分子の発掘, 日本プロテオーム学会 2011 年会、新潟、2011.7.28-30.
236. 柳澤侑哉, 永田佳代子, 野村文子, 木村弥生, 佐久間祐司, 宮城洋平, 平野 久: リン酸化プロテオーム解析による GIST のイマチニブ二次耐性分子メカニズムの解明, パシフィコ横浜, 神奈川, 第 34 回日本分子生物学会年会, 2011.12.13-16.
237. 尾野雅哉, 紙田正博, 五十嵐文子, 山田哲司: 2DICAL による定量プロテオミクス日本プロテオーム学会 2011 年大会、シンポジウム 6 定量プロテオミクス、平成 23 年 7 月 29 日 (朱鷺メッセ、新潟市)
238. 紙田正博, 五十嵐文子, きょう建生, 酒井 義人, 伊藤研悠, 原田 敦, 新飯田俊平, 山田哲司, 尾野雅哉: 2DICAL を用いた腰部脊柱管狭窄症のプロテオーム解析 日本プロテオーム学会 2011 年大会平成 23 年 7 月 28, 29 日 (朱鷺メッセ、新潟市)
239. 尾野雅哉: 2DICAL を用いた疾患関連蛋白質の探索法と臨床研究への応用第 15 回薬物動態談話会セミナー平成 23 年 8 月 25 日 (ホテルコスモスクエア国際交流センター、大阪市)
240. 尾野雅哉: プロテオームを活用した最先端がん研究第 10 期第 2 回バイオファイナンスギルドセミナー平成 23 年 9 月 9 日 (バイオフィロンティアパートナーズ特別講堂、東京都)
241. Ono M, Kamita M, Ikarashi A, Negishi A, Matsubara J, Yamada T.: Identifying new therapeutic The discovery of molecular targets for cancer diagnosis and therapy by a proteome platform - 2DICAL. 第 70 回日本癌学会学術総会平成 23 年 10 月 5 日 (名古屋国際会議場、名古屋市)
242. Yamada T, Honda K, Masuda M, Shitashige M, Ono M.: Identifying new therapeutic targets for personalized medicine. 第 70 回日本癌学会学術総会平成 23 年 10 月 5 日 (名古屋国際会議場、名古屋市)
243. 尾野雅哉: 2DICAL による新規がんマーカー探索第 11 回バイオメディカル研究会平成 23 年 10 月 28 日 (都市活力研究所、大阪市)
244. 尾野雅哉: プロテオーム解析技術 2DICAL を用いた新規がん診断・治療法の開発 神戸大学大学院グローバル COE 平成 23 年度神戸大学大学院先端医学シリーズ 平成 23 年 10 月 31 日 (神戸大学大学院医学研究科、神戸市)
245. Shitashige M, Honda K, Masuda M, Ono M, Yamada T.: Targeting the WNT signaling pathway France–Japan Symposium on Cancer Research 2011. 平成 23 年 11 月 1 日 (フランス大使館、東京都)
246. 尾野雅哉: プロテオーム解析技術 「2DICAL」を基盤とした質量分析計による新しいがん診断・治療法の開発メタボロミクス/プロテオミクスセミナー平成 23 年 11 月 8 日 (千里ライフサイエンスセンター、大阪府豊中市)
247. 尾野雅哉: プロテオーム解析技術 「2DICAL」を基盤とした質量分析計による新しいがん診断・治療法の開発メタボロミクス/プロテオミクスセミナー平成 23 年 11 月 10 日 (ホテルラフォーレ東京、東京都)
248. Sakuma T, Ono M, Kuwabara H, Banno M, Kamita M, Yamada T.: Wonder 3: A new computer algorithm for modified protein identification utilizing MS3 multi-tandem mass spectrum. 60th Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics. 平成